

予報期間 11月9日から11月15日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 11日は、カムチャツカ半島付近に発達した低気圧が進み、高気圧が朝鮮半島付近に移動する。
- 12日は、高気圧が日本付近から日本の東へ移動し、低気圧が沿海州付近へ進む。前線が東シナ海から日本の南にのびる。
- 13日は、低気圧がオホーツク海へ進み、低気圧からのびる前線が北日本を通過する。大陸の高気圧が日本海へ張り出す。前線が東シナ海から日本の南に停滞する。
- 14日から15日にかけて、高気圧が日本付近を東に移動する。日本の南の前線が南下しながら次第に不明瞭となる。

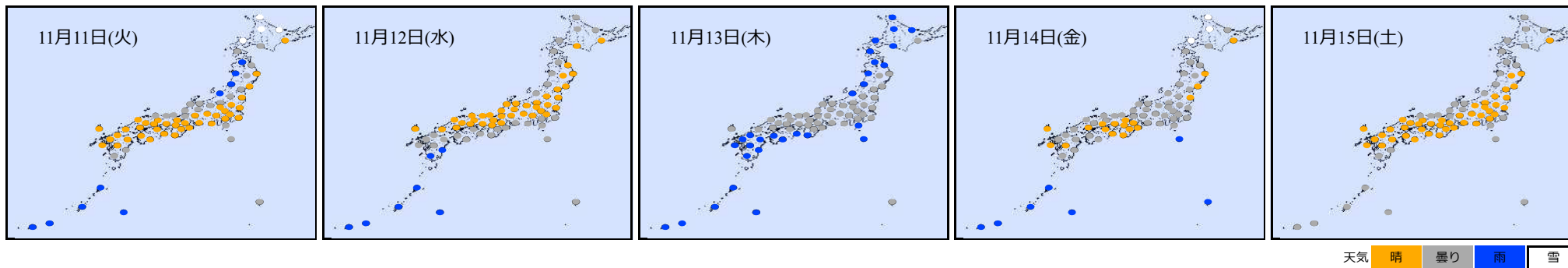
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 13日頃にかけて沖縄・奄美では、台風の進路や前線の活動の程度によっては大しけや警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

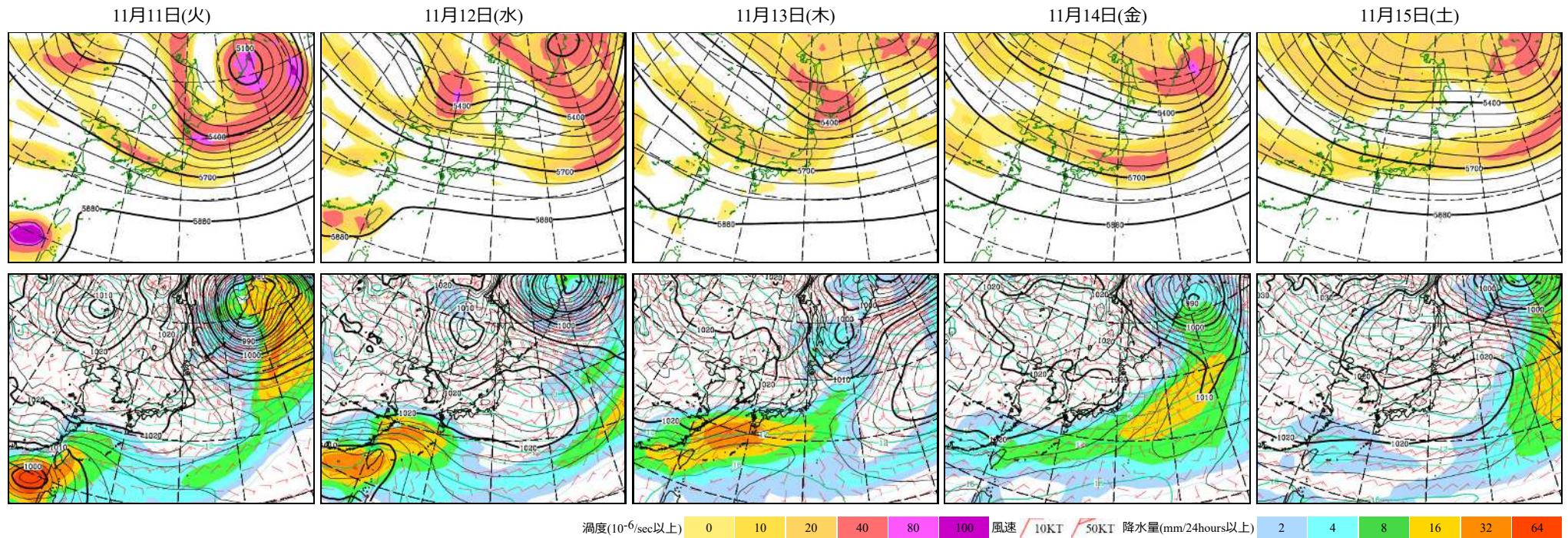
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

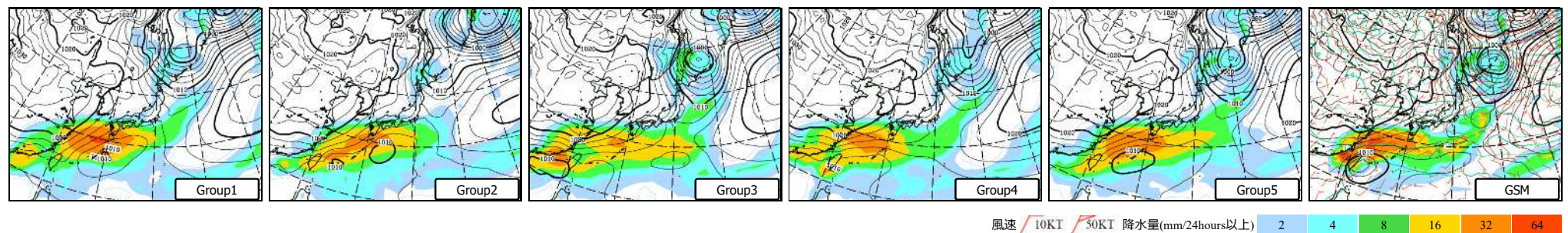


- 北日本から東日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 北日本から東日本にかけての太平洋側と西日本は、曇りや晴れの日が多いが雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、13日にオホーツク海へ進む低気圧は東進が早くなり勢力が強まった。13日から14日にかけて、日本の南を北東へ進む低気圧が不明瞭となったため、本州付近の降水確率ガイダンスの値が小さくなった所が多い。
- スプレッドは比較的小さく、各モデルとも500hPaの大まかな流れは一致しているが、13日にオホーツク海付近を進む低気圧や台風第26号の動向にはばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。